

アートプロジェクトは、日本において 1990 年代に成立した社会活動である。地域社会に芸術を投げかける活動は、2000 年以降、全国各地に普及した。教育やまちづくり、福祉など公共政策と連携して実施されるアートプロジェクトは、領域横断の活動であるため評価は難しい。そのため、アートプロジェクトの仕組みや方法は明らかになっていない。その普及と発展のためには、理論構築と課題の共有が必要である。本研究の目的は、芸術創造と公共政策の共創を誘発するアートプロジェクトの構造と意義を明らかにすることである。本研究では、代表的なアートプロジェクトの事例を調査し、その仕組みと方法と課題を考察した。さらに、その研究成果に基づいて、俯瞰的な観点からアートプロジェクトの価値と可能性について論じた。

本研究は序論、本論、結論で構成され、本論は7つの章で組み立てられている。

第1章では、アートプロジェクト成立の要因と、その発展の過程について考察した。アートプロジェクトは、1990年に始まり、黎明期(1990-1993)、実験期(1994-1999)、発展期(2000-2011)の3期に区分できることが分かった。

第2章では、兵庫県で実施されたアートプロジェクトを調査し、7つの代表事例を選定した。兵庫県を対象とした理由は、「地方の重要性」と「阪神淡路大震災」である。現代芸術は、都市部中心の活動であったが、アートプロジェクトは地方においても盛んである。本研究において、地方を調査対象とすることは有効である。また、阪神淡路大震災(1995)は、「現代芸術」、「文化政策」、「市民社会」の3つの分野の発展を促進する重要な要因となり、アートプロジェクトの発展に大きな影響を与えた。

第3章では、教育とコラボレーションするアートプロジェクトである「ホタルキノコ」、「町ちゅう美術館」、「加古川市立山手中学校アートプロジェクト」を調査し、その仕組みと方法と課題を明らかにした。

第4章では、コミュニティとコラボレーションするアートプロジェクトである「注文の多い楽農店」、「舞多聞ネイチャーアート」を調査し、その仕組みと方法と課題を明らかにした。

第5章では、福祉とコラボレーションするアートプロジェクトである「みっくすさいだー」、「えびすアートプロジェクト」を調査し、その仕組みと方法と課題を明らかにした。

第6章では、第5章までの研究成果を総合し、アートプロジェクトの仕組みと方法と課題について考察した。その仕組みは、「領域横断」、「住民参加」、「共同制作」の3つの条件と、「表現と交流の循環」で成り立っている。その方法は、10種類の企画方法と10種類の運営方法にまとめることができる。その課題は、「副作用」、「地域文化の創出」、「共創のバランス」、「著作権」、「リーダーの養成」、「記録と公開」である。

第7章では、第6章までの研究成果に基づいて、俯瞰的視点からアートプロジェクトの価値と可能性を考察した。アートプロジェクトの芸術創造に関する効果は、「共創芸術の誕生」と「芸術の相対化」である。本研究では、現代芸術の概念から逸脱した活動であるアートプロジェクトを、「共感性」、「包摂性」、「連鎖性」を特性として持つ新しい芸術領域「共創芸術」の誕生と捉えた。「共創芸術」は、近代化によって分断された芸術同士をつなぎ、そこに交通を創出する。その結果、芸術の相対化が実現し、芸術創造の活性化が促進される。一方、アートプロジェクトの公共政策における効果は、「地域資源の再編」、「公共政策の攪拌」、「地域協働の創出」である。それらの効果は、持続可能な社会や共生社会の実現を促進する。最後に、これらの考察の総合によって、芸術創造と公共政策の共創を誘発するアートプロジェクトが、近代を補完する可能性と価値を持つ活動であることが明らかになった。